

プロフィール

1950年兵庫県生まれ、大阪医科大学。虎ノ門病院、順天堂大、大阪医大勤務を経てアメリカのユタ大留学。92年東京・三井記念病院の心臓血管外科部長。96年神奈川・湘南鎌倉総合病院副院長になり、低容量心筋症に対して白本初のバチスタ手術を成功させた。98年同病院院長。2000年神奈川・葉山ハートセンター院長。2012年、東京都渋谷区に須磨ハートクリニック開業。

あの人に会った

須磨 久善さん
須磨ハートクリニック院長

病気で肥大した心臓の一部を切り取って、適正なサイズに治す「バチスタ手術」。この難しい手術を、日本で初めて実施したのが心臓外科医の須磨久善さんです。静岡県浜松市立立川小6年の原子美瑛さんと、4年の絵梨さんの姉妹が会いに行きました。

◇みんなには、ぜひこの人に会いたいな、という人がいるでしょう。毎週このコーナーでは、毎小特派員のみなさんといっしょに取材します。あなたのあこ

がれの人、直接会って質問してみたい人の名前をはかきに書いて(あなたの名前、住所、電話番号、学年、性別もね)、T00-08051(住所はいりません)

毎日小学生新聞「会いたい」係まで送ってください。待ってるね! 毎小特派員の登録は「特派員」係まで申しこんでね。



須磨久善さん(中央)と、イタビコーした原子美瑛さん(左)と絵梨さんの姉妹(東京都渋谷区須磨ハートクリニック)

美瑛さん どうして心臓外科を選んだのですか。
須磨さん 心臓外科医の恩師に出会ったからです。若くして教授になった先生で、アメリカで修業

百人かな。
絵梨さん 手術の間違いはありますか。
須磨さん 最初は細かい間違いをします。だからベテランの医師

「幸せ」考え、医者になる

美瑛さん いつごろどうして医者になると思ったのですか。
須磨さん 中学生のころです。幸せになるにはどうするべきか、自問自答していました。医者は患者さんと1対1の関係で仕事ができると思う、中3の時に親に医者になると宣言しました。高3の夏休み明けの模試では100%受からない点数でした。そこで半年間、ただ受験勉強の日々を送り、合格しました。

美瑛さん どれぐらい手術しましたか。
須磨さん 執刀医としては5000人まで数えましたが、5千数

がついて指導します。
美瑛さん たくさん本を書いていらっやいますね。
須磨さん 40代、50代のころは



▲「コミュニケーション力を高める努力をしてくださ」と話す須磨久善さん(本人提供)



▲手術中の須磨久善さん(本人提供)

毎日3人ぐらいの手術をしていましたが、(0)代になって若い先生に任せるようになりました。僕は小学生や中高生を対象に講演をするようになりました。そして直接会わなくてもメッセージを届けたいと思い、本を書くようになりました。

美瑛さん 医師になるためには、相手が納得して、喜んでくれることが大切です。だから、相手とうまく理解し合える技術を身につけましょう。いろんな人と理解しあおうと思えば、おしやべりしないといけない。コミュニケーション力を高める努力をしてください。そして人間という生きものに対して、常に好奇心を持ちましょう。自問自答をする習慣も身につけてください。考えている間に、きっと答えがみつかりますよ。【まとめ・太田保志】

手術は病気を治すためのプロセス

絵梨さん 体にメスを入れるときはどう思っていますか。

須磨さん 病気を治すという目標に向かうプロセス(過程)です。あらかじめ手術の手順をイメージをしておいて、手術中は次に起こることを想定しています。